

第九回 Word編 (5) SmartArt、ワードアート、画像

担当者：張 俊超 (チョウ シュンチョウ)

Part I

1 復習

1.1 課題について

図形作成

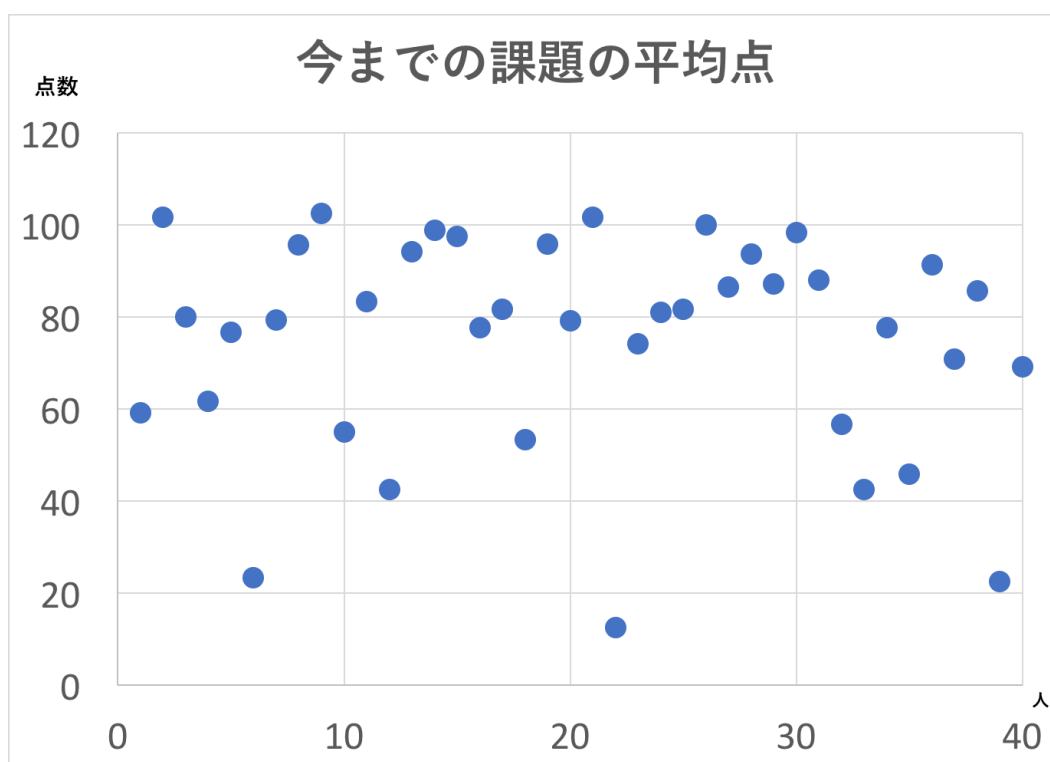
平均：81(40人、提出していない人は0とした)

男性：75

女性：94

提出していない：6人

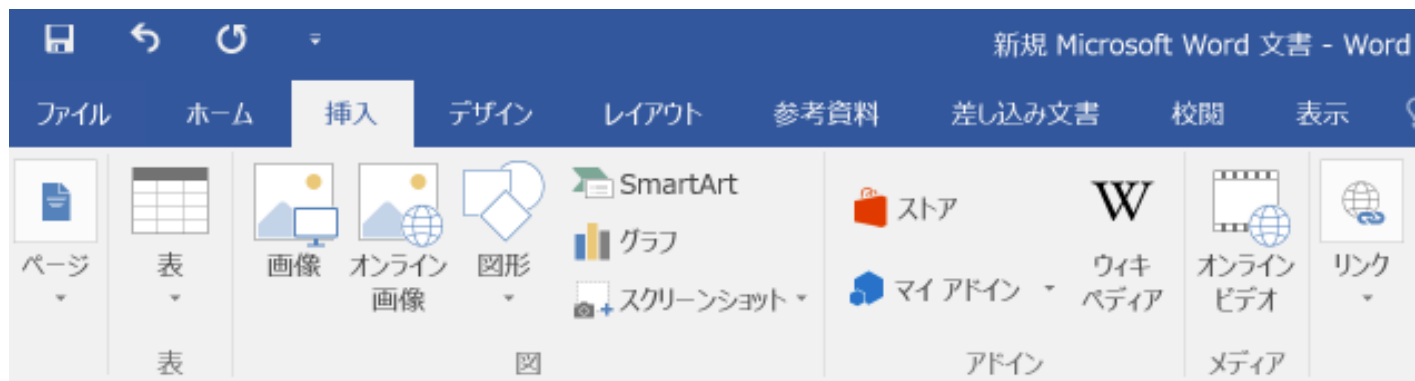
1.2 課題の注意点



Part II

2 SmartArt

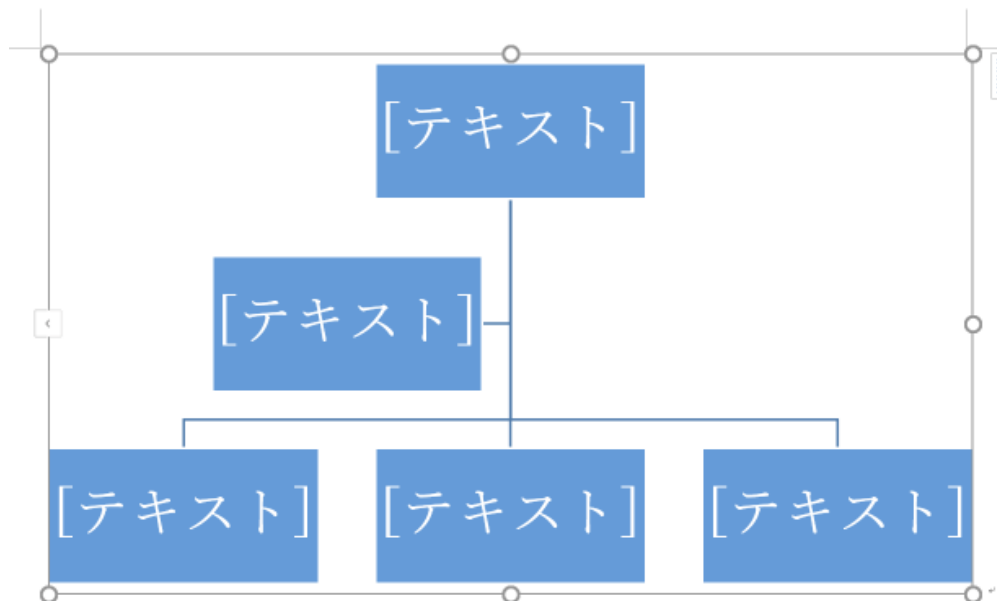
「挿入」タブの下で、SmartArtを用いると、簡単なフローチャット、集合関係の図が作れる。



階層構造の下で、「組織図」をつくってみてください。



以下のような、テキスト入力可能な組織図が追加される。



右クリックで、図形の変更、追加することができる。

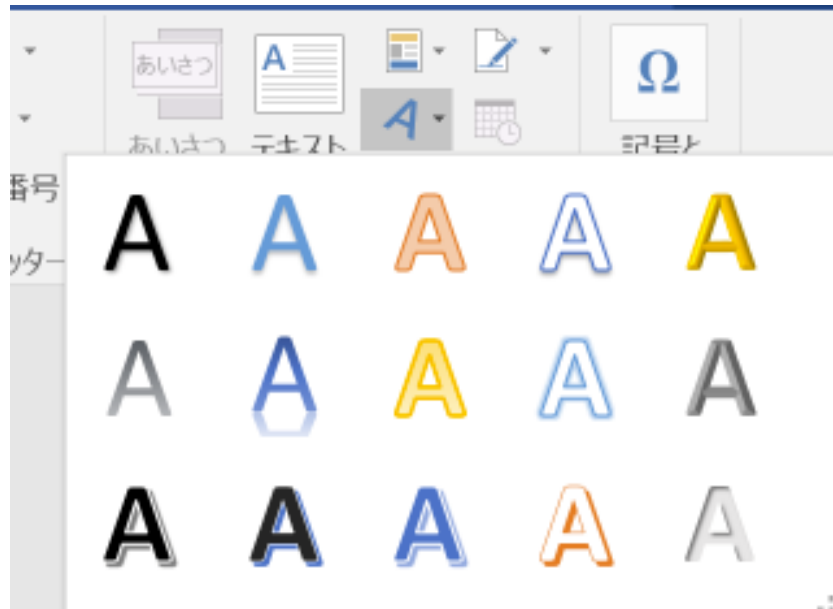
マウスでドラグすることで、図形の位置を調整できる。

3 ワードアート

ワードアートは文字を効果的に表現する機能です。



「挿入」タブの下で、右の辺にある斜めている「A」のボタンを押すと、ワードアートを作れる。



ワードアートを作るときに、既存のスタイルに希望のスタイルがなければ、とりあえず挿入し、後から「書式」タブで変更できる。

4 オブジェクトとテキストの折り返し

図形、SmartArt、ワードアート、画像などで作成された内容は、Wordでは「オブジェクト」として扱われる。オブジェクトは本文のテキストとは別扱いになるため、本文と混在した場合、配置の方法を指定しなければならない。

Googleで「ミクロ経済学」を検索して、その定義をWordにコピペしてください。そして、「ミクロ経済学」のワードアートを挿入してください。

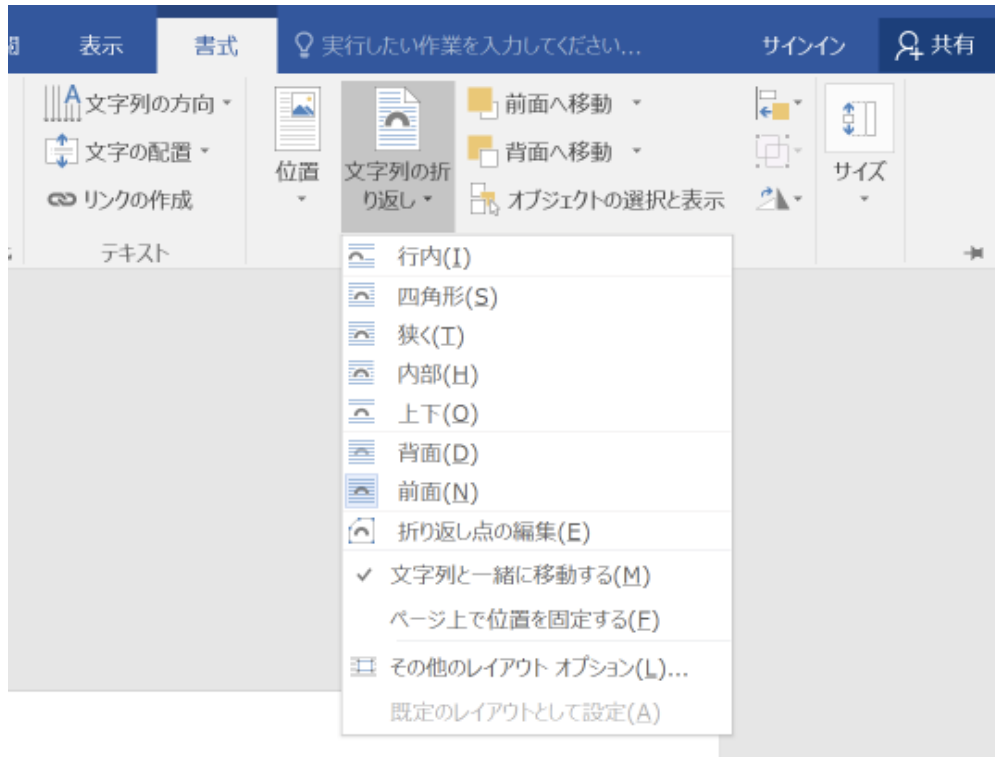
ミクロ経済学（ミクロけいぎがく、英: Microeconomics）は、マクロ経済学に並ぶ近代経済学の主要な一分野である。

ミクロ経済学

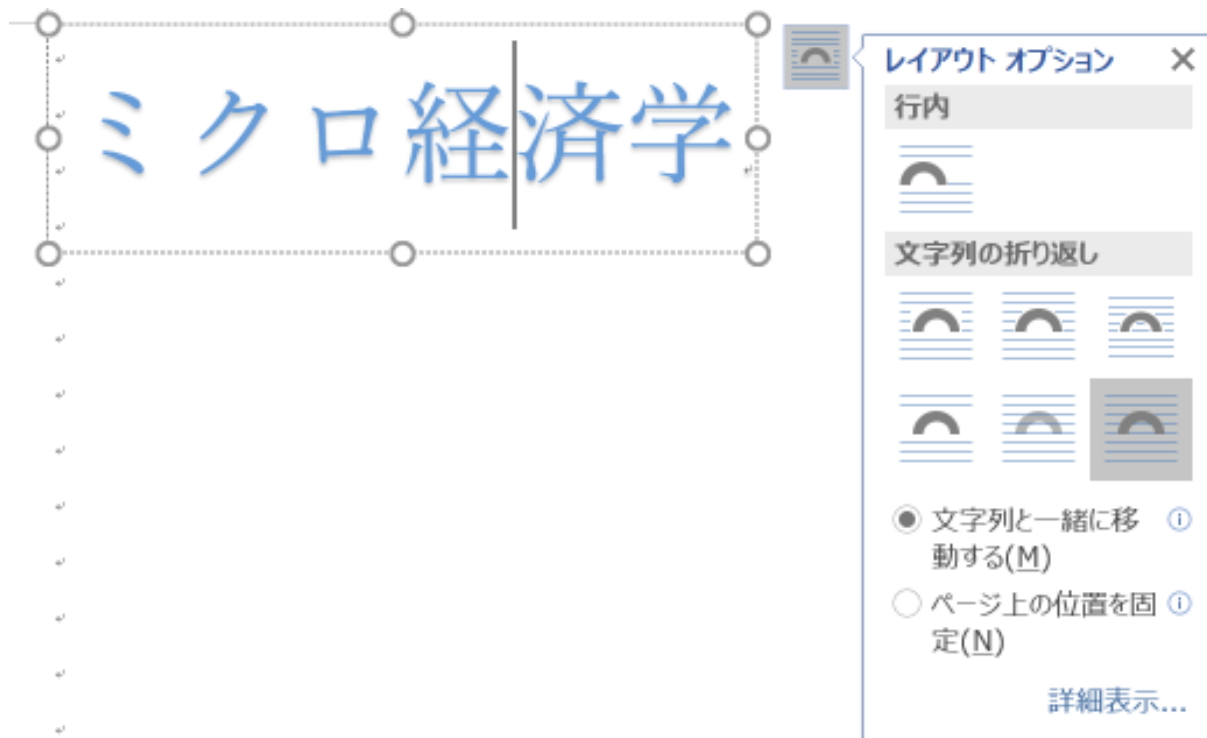
経済主体の最小単位と定義する家計（消費者）、企業（生産者）、それらが経済的な取引を行う市場をその分析対象とし、世の中に存在する希少な資源の配分について研究する経済学の研究領域であり、最小単位の経済主体の行動を扱うためミクロ経済学と呼ばれる。

これとは別に個別の経済活動を集計したマクロ経済学という領域もあり、ミクロ経済学と併せて経済学の二大理論として扱われている。ただし、現代ではマクロ経済学もミクロ経済学の応用分野の一つという面が強い。ミクロ経済学は、その応用分野であるマクロ経済学、財政学、金融論、公共経済学、国際経済学、産業組織論などに対して、分析の基礎理論を提供する役割をも果たしている。

経済学者の岩田規久男はミクロ経済学の誕生がアダム・スミスの著書『国富論』（1776年）に始まるとしている[1]。



「書式」タブの下で、「文字列の折り返し」でオブジェクトとテキストの配置を設定できる。

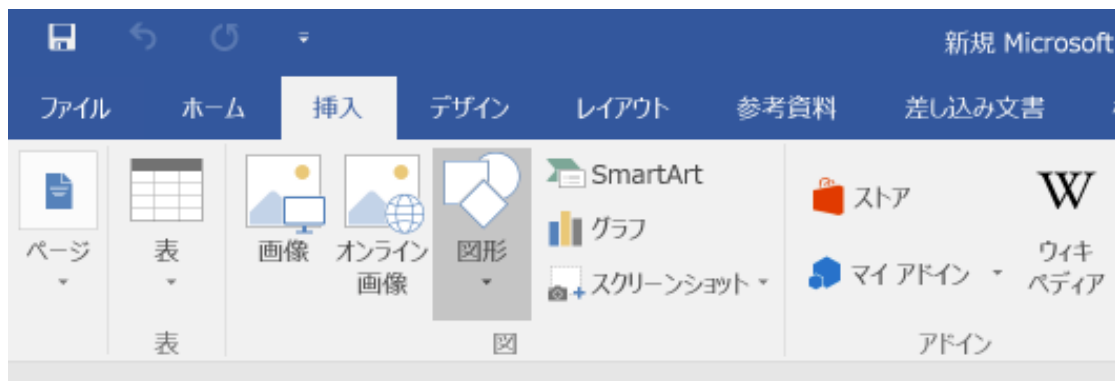


または、挿入したワードアートを選択し、右にある「レイアウトオプション」で早く設定できる。

5 画像の挿入と編集

「挿入」タブの下で、「画像」よりパソコンに保存されたものを挿入できる。「オンライン画像」によりネット上の画像を挿入できる。

Wordでは、簡単な画像の修正ができる。背景の削除、色の変更など...



「オンライン画像」よりバラを挿入し、その背景を削除してみてください。



Part III

6 課題

学部 ▶

- ▶ 教育学部
 - ▶ 附属施設・学校
- ▶ 経済学部
 - ▶ アジア経済社会研究センター
- ▶ 経営学部
- ▶ 理工学部
- ▶ 都市科学部

大学院 ▶

- ▶ 教育学研究科
- ▶ 国際社会科学府・研究院
- ▶ 工学府・研究院
- ▶ 環境情報学府・研究院
- ▶ 都市イノベーション学府・研究院

1. 上記の図を参考し、横浜国大の組織図を作ってください。
2. 「猫」のオンライン画像を挿入し、その背景を消してください。（もともとの画像もファイルの中で保存してください。）

マクロ経済学（マクロけいざいがく、英: macroeconomics）は、経済学の一つで、個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱うものである。マクロ経済変数の決定と変動に注目し、国民所得・失業率・インフレーションある。またマクロ経済分析の対象市場、貨幣(資本・債券)市場、労働構成する個々の主体を問題にするミクロ経済との二分法を最初に考案したナール・フリッシュ[1]。「ミクロ経済」で用いたのは、オランダの経済学は、1936年のジョン・メイナード・ケインズ（ケインズ経済学）の著書『雇用・利子および貨幣の一般理論』に始まる[3]。



ン・投資・貿易収支などの集計量となる市場は、生産物(財・サービス)市場に分けられる。対語は、経済を構クロ経済学。なお、マクロ経済とミクたのは、ノルウェーの経済学者ラグ学」と「マクロ経済学」の用語をはじめ学者ウルフ[2]。マクロ経済学の誕生

3. 「マクロ経済学」の定義をwikiで検索し、コピーしてテキストとして保存してください。マクロ経済学の教科書の画像をダウンロードし、本文に挿入し、サイズを調整してから、文書の内部に配置してください。

「SmartArtと画像練習.docx」として保存し、ztempest0218@gmail.comに送信してください。